

統計ハンドブックがアジアの果実貿易の変化を強調

ASIAFRUIT 2023年9月27日

アジア果実会議(Asiafruit Congress)統計ハンドブック2023がアジアの12の市場の主要な傾向について専門家による分析を提供

輸出元が市場の需要に追いつくのに苦労しており、主要な輸出国からの出荷量の減少を背景に、2022年のアジアの生鮮果実の総輸入量は減少した。これは、アジア果実会議統計ハンドブック2023で強調されているアジアの青果物貿易の主要な傾向の1つである。

アジアフルーツマガジンが発行するアジアの生鮮果実・野菜の貿易に関するこの年次統計ガイドは、2023年9月6日～8日に香港で開催されたアジア果実会議とアジア果実展覧会(Asia Fruit Logistica)で発表された。同ハンドブックの分析によると、アジア市場は2022年にすべての原産国から前年比6%減となる1,490万トンの生鮮果実を輸入した。

アジア域内相互の貿易は約8%減少して1,020万トンとなり、アジアの総輸入量のほぼ70%を占めた。アジア域内の貿易は、気候の温暖な東南アジア市場における温帯果実の需要と、北アジア市場におけるバナナ、リュウガン、ドラゴンフルーツなどの熱帯果実の需要によって推進されている。

中国は、アジア最大の生鮮果実の輸出入国であり、引き続き貿易状況全体に大きな影響を与えている。2022年の輸入量は微増の約580万トンで、主に熱帯果実と自国のシーズンオフにおける南半球産温帯果実で構成されていた。中国の輸出は前年比8%減の約300万トンで、リンゴとナシの輸出量が著しく減少した。

世界的に見たアジアへの果実供給に関しては、一部の地域からの輸入は増加し、他の地域からは減少した。

南部アフリカ諸国からの貿易は、インド、中国、東南アジア向けの柑橘類とブドウの出荷の増加に牽引されて、7%増の81万689トンとなった。中東及び北アフリカ地域からアジアへの輸入は21%増加し、これは特にインド向けを中心にエジプト産柑橘類とトルコ及びイランからの出荷の増に支えられたものであった。

南米からアジアへの輸出量は100万トン強で安定しており、これには中国とその他の市場向けのチリ産サクランボの輸出量約40万トン含まれている。オーストラリアとニュージーランドからの輸入は、主にキウイフルーツ、リンゴ、柑橘類、ブドウで構成され、3%減の98万2,352トンであった。

米国とカナダからの輸入は、サクランボ、柑橘類、核果類における悪天候と物流の課題を反映して、19%減の60万5,963トンとなった。同様に、中国が東南アジアの供給国からより多くのバナナを輸入したため、中米産のバナナは17%以上減少した。

東南アジアの主要市場では、中国からのリンゴとナシの出荷量が減少したことを反映して、輸入量が減少した。タイによる果実輸入は60万1,459トンで横ばいであったが、インドネシアは6%減の66万6,001トン、フィリピンは30%減の34万8,860トンとなった。

ベトナムの輸入量は2%増の122万トンとなり、そのうちリンゴの輸入量は南アフリカとニュージーランドからの輸入の力強い成長に牽引されて16%増加した。ベトナムの生鮮果実の輸出量も2%増加して126万トンとなり、中でもバナナの輸出が38%増加し、そのほとんどが中国向けであった。

インドの生鮮果実の輸入量は、2021年に倍増した後、9%減少して65万6,127トンとなり、これは2020年以前のレベルを大きく上回っている。

アジア果実会議統計ハンドブックの無料デジタル版は [Asiafruit app](#) から入手できる。

執筆者: ジョン・ヘイ、ウェイン・プラウズ